

関係各位

北海道がんセンター薬剤部

免疫チェックポイント阻害薬による免疫関連有害事象
トレーシングレポートの運用について

【目的・背景】

現在、免疫チェックポイント阻害薬（ICI）を使用した治療は、複数の疾患にて使用されておりその使用頻度は日々増加しています。その治療は、入院治療のみならず、現在では、外来治療を中心に行われています。よって、保険薬局への情報提供の重要度高まることが予想されます。情報提供の中心は免疫関連有害事象（irAE）に関連する内容と考えています。この irAE の特徴として発現頻度が低くその発現時期が予測困難である点や全身性に発現する点があげられます。さらに、最近では、ICI 終了後に irAE が発現する事例が問題となっています。また、ICI 歴のある場合、次治療において間質性肺疾患のリスクが高まるといった研究報告もあり、ICI 治療中のみならず治療後においても注意を払うことが求められています。そこで、薬薬連携のツールであるお薬手帳に ICI 治療歴を記載することで、ICI 治療中の患者のみならず治療後の患者についても積極的にフォローしていければと考え、“ICI 治療歴シール”の導入を考え作成しました。

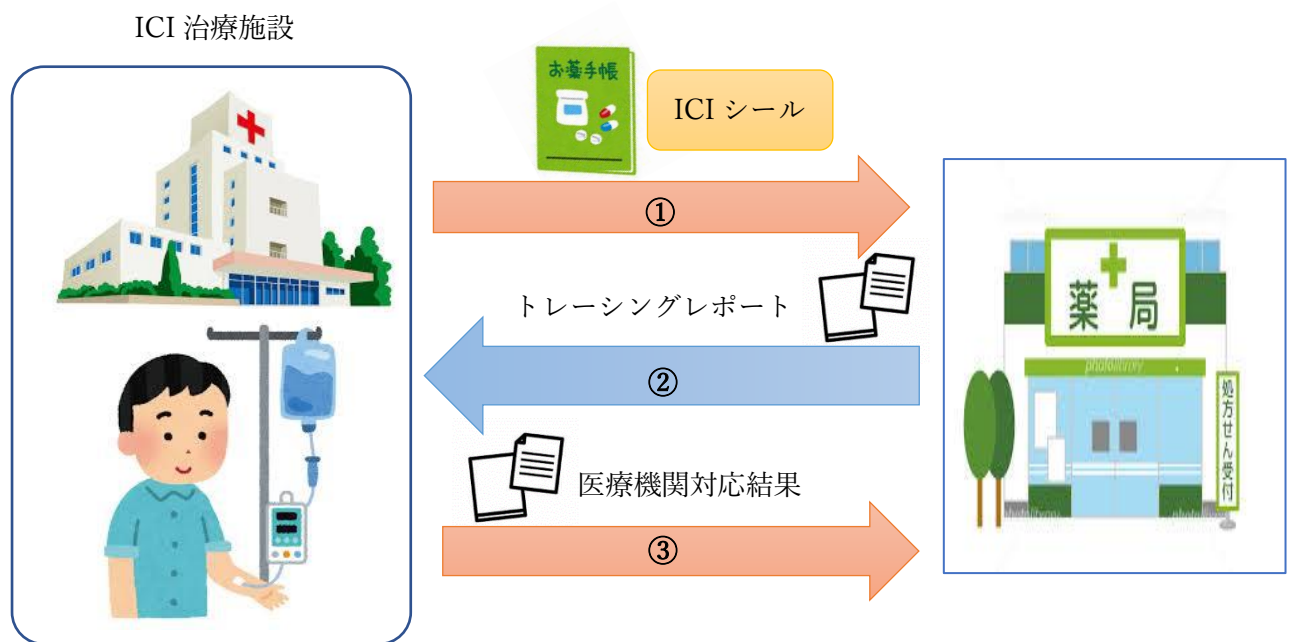
【運用方法】

- ・ ICI 治療実施医療機関の薬剤師が、ICI 治療開始時、もしくは治療中の患者さんのお薬手帳に専用シールを貼付します。お薬手帳交換時などで情報の継続が必要と思われる場合は保険薬局においても出力し、貼付をお願いします。概ね、治療終了後 1 年間を想定しておりますが、患者さんの希望がありましたら、継続は可能と考えております。

（フローチャート①参照）

- ・ 何らかの情報を入手した際には、ICI 治療に関する“専用トレーシングレポート”にて医療機関へ連絡をお願いします。（フローチャート②参照）
- ・ 連絡を受けた医療機関スタッフは、各施設の運用に応じて、トレーシングレポートの内容を主治医などへフィードバックし、今後の対応を検討し、医療機関スタッフは、その内容を保険薬局へフィードバックし共有します。（フローチャート③参照）

北海道がんセンター薬剤部



トレーシングレポート運用のフローチャート

ICI トレーシングレポートの運用方法に関する問い合わせ先
 北海道がんセンター薬剤部